

平安貴族社会の 秩序と昇進

佐古 愛己 著

▶ A5判・500頁／定価8,190円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1602-4 2012年2月刊行

律令国家体制が維持されていた平安初期から、平安末・鎌倉初期までを射程として、貴族社会の構成と編成原理を解明する大著。

その素材として、人事・昇進制度、特に叙位制度に注目。平安時代の叙位制度はこれまで個別制度の解明に主眼が置かれ、叙位制度の変化に連動するはずの律令官司制の変質、中世国家機構の形成過程との有機的な関連はほとんど追究されてこなかった。

本書では、平安から鎌倉初期にかけての各制度の総体的な把握を試みることにより、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明らかにし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

内容目次

序章

研究史と研究視角／本書の課題と構成

I 叙位制度と貴族社会

第一章 年勞制の変遷

公卿昇進コース上の加階勞／外記・史の昇進と勞／侍層の昇進と勞

第二章 年爵制度と貴族社会

中世成立期における叙位制度の展開と年爵制度の位置づけ／年爵制度をめぐる諸問題／叙位制度の中世的展開と叙位関係文書

補論1 「故人未給」にみる年給制度の本質

撰関期の故人未給／「叙料支払い事例」と故人未給／「叙料支払い事例」と給主の窮状／院政期以降の故人未給

第三章 「官方行事」における勳賞の特質

—神社行幸を素材として—
神社行幸の運営組織／天仁二年の神社行幸と巡(めぐり)／中世的勳賞の一考察

第四章 非「官方行事」における勳賞の特質

—朝觀行幸を素材として—
朝觀行幸の成立と展開／撰関期の朝觀行啓・行幸と勳賞／院政期の朝觀行幸

補論2 中世公家社会における叙位の一考察

—尻付「臨時」を素材として—
「臨時」の初見／超越への対応としての「臨時」／鎌倉期の叙位と「臨時」

第五章 平安貴族社会における叙位制度の展開と特質

律令制下の叙位制度／平安前・中期における叙位制度の展開／中世公家社会の成立と叙位制度の展開

II 平安貴族社会の秩序と行動

第六章 平安末～鎌倉中期における花山院家の周辺

—『名語記』著者經尊の出自をめぐる—
經尊の出自／平安末～鎌倉前期における花山院家／經尊の周辺

第七章 撰関・院政期における受領成功と貴族社会

受領成功採用の背景／院政期における受領成功の特質／撰関・院政期の大規模造営における受領成功とその意義

第八章 撰関・院政期における天皇・上皇の移徙

院政期京都の都市構造／移徙の儀式／天皇の移徙／上皇の移徙／移徙関連の勳賞と院御所造営の背景

終章

さこ・あいみ…立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士(文学)。現在、立命館大学文学部准教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	平安貴族社会の秩序と昇進		本体7,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1602-4
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

御堂関白記全註釈 [第2期・全8巻]

山中裕編

藤原道長の日記「御堂関白記」は平安時代を代表する一級史料で平安期研究には不可欠のものである。本全註釈は、永年にわたる講読会（東京・京都）と夏の集中講座による成果を集成したもので、原文・読み下しと詳細な注によって構成され、日記研究の基本文献としての体裁を整えている。

▶A5判・総2,030頁／定価揃 53,025円

仁明朝史の研究 承和転換期とその周辺

角田文衛監修／(財)古代学協会編

(財)古代学協会にて行われた平安時代をテーマとした共同研究の最新成果。王朝文化の先駆けを成す重要な転換期である仁明天皇(在位833～858年)の時代の歴史的意義を、文献学・考古学・美術史などから多角的に解き明かし、日本国内のみならず東アジア世界の動向とも関連づける。

▶A5判・350頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1547-8

禁裏本歌書の蔵書史的研究

酒井茂幸著

従来の和歌文学の書誌学的研究が個別の資料に基づき行われてきたのに対し、禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつ、その伝来の歴史を跡付ける。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収蔵していったかを明かす。

▶A5判・344頁／定価 5,880円

ISBN978-4-7842-1483-9

安祥寺資財帳

京都大学史料叢書①

京都大学文学部日本史研究室編／中町美香子・鎌田元一編集・解説
安祥寺は平安時代に入唐僧・恵運が開山した真言系の密教寺院。本資財帳は、恵運が貞観9年(867)に自ら勘録したもので、建立の経緯、貞観9年段階での規模、資財などが記されており、巻首から巻尾まで備わった貴重な9世紀の資財帳史料の一つ。現存の諸本の祖にあたる京都大学蔵本(旧観智院蔵本)を影印で収録。釈文と解説を付す。

▶A5判・176頁／定価 5,775円

ISBN978-4-7842-1516-4

後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

本書は、後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／定価 6,300円

ISBN978-4-7842-1536-2

日本古代即位儀礼史の研究

加茂正典著

思文閣史学叢書

本書は大嘗祭はもちろん、剣璽渡御儀礼・即位式といった広義の即位儀礼をとりあげることに、桓武・平城朝における即位儀礼の儀式的意味と歴史的意義を明らかにする。さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表、新嘗祭・大嘗祭関係文献目録(昭和20年～平成10年)を収録し、巻末には索引を付す。

▶A5判・480頁／定価 9,030円

ISBN4-7842-0995-6

日中親族構造の比較研究

官文娜著

思文閣史学叢書

日中親族集団の構造を手がかりとして、日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、またともに「アジア文化圏」に属する両国の、近代以降における西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。

▶A5判・430頁／定価 7,560円

ISBN4-7842-1241-8

中世前期女性院宮の研究

山田彩起子著

院政・鎌倉期における女性院宮(女院・后)の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、撰開家出身の女性院宮の撰開家における独自の役割の大きさを論証する。中世前期の女性院宮研究のみならず、中世の公家社会研究に寄与する一書。

▶A5判・310頁／定価 5,880円

ISBN978-4-7842-1496-9

東京国立博物館古典籍叢刊
九条家本 延喜式(既刊1冊)

東京国立博物館所蔵の国宝「九条家本延喜式」を、紙背文書も含めて写真版で影印出版。F Mスクリーンによる高精細印刷で、朱書きがある箇所は二色刷にし、第五巻には九条家本延喜式の解説と紙背文書全文の翻刻を付す。紙背は横長で掲載し、できるだけ一文書を一頁で見られるように工夫したものである。

▶第一巻 A5判・450頁／定価 15,750円

ISBN978-4-7842-1535-5

禁裏・公家文庫研究 第一～三輯

田島公編

勅封で全容が不明であった東山御文庫本を中心に、近世の禁裏文庫所蔵の写本、公家の諸文庫所蔵本に関する論考・史料紹介などを収録。

▶第一輯 B5判・390頁／定価 10,290円

ISBN4-7842-1143-8

▶第二輯 B5判・406頁／定価 10,290円

ISBN4-7842-1293-0

▶第三輯 B5判・496頁／定価 12,390円

ISBN978-4-7842-1414-3

奈良朝人物列伝 『続日本紀』薨卒伝の検討

林陸朗著

『続日本紀』収録の全54名の薨卒伝(王臣・僧侶等の死没後に出る略伝的な記事)をとりあげ、現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。特色ある54名の生き様から、権謀渦巻く奈良朝政治の裏側を見る。【掲載人物】道昭和尚／行基和尚／光明皇后／藤原仲麻呂／坂上犬養／吉備真備／藤原百川／石上宅嗣／大伴家持／藤原乙牟漏 他

▶A5判・468頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1517-1

兵範記人名索引

兵範記輪読会編(代表 杉橋隆夫)

1980(昭和55)年の輪読会発足より蓄積された研究成果を人名索引として集成。(増補)史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部の2部構成よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込んだ、古代・中世史研究者必携の一書。

▶【内容】男子部／女子部／あとがき

▶A5判・484頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1358-0

撰開時代文化史研究

関口力著

思文閣史学叢書

藤原道長の時代を中心に取り上げ、古記録・日記類をもとにして撰開時代全盛期に生きた人物、彼らをはぐくんできた社会について考察。政権を掌握した体制派、それに対する反体制派、そうした官人層とは一線を画した非体制派の人物群という基本的な人間類型を示すことにより、あくまで人間が主人公である歴史の在り方について追究する。

▶A5判・488頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1344-3

*日本古代宮廷社会の研究

瀧浪貞子著

思文閣史学叢書

先入観を極力排し、奈良・平安時代を連続して考察することにより、光明子立后論の盲点を衝き、学問的に忌避されがちな孝謙女帝の復権を果すなど創見に富む著者の論文集。

▶【内容】I 皇位と皇統／II 場の政治学／III 官都の構造／IV 律令課役論断章

▶A5判・640頁／定価 12,390円

ISBN4-7842-0677-9

*院政期政治史研究

元木泰雄著

思文閣史学叢書

武家棟梁の政治的限界に気づいて以来大きな政治力を有する荘園領主権門の分析に傾倒してきた著者が15年の研究成果を纏め、権門としての撰開家の特質に注目した新たな平安政治史を提示する。さらに平氏政権をとりあげ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。

▶A5判・406頁／定価 8,190円

ISBN4-7842-0901-8

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は? 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか?

中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

▶A5判・584頁／定価 7,560円

ISBN978-4-7842-1502-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。